

# 年頭のご挨拶

社団法人 北海道林産技術普及協会

会長 高橋 秀樹



あけましておめでとうございます。平成19年の新春を会員皆様とご一緒にお慶び申し上げます。また日頃より当協会の運営に対し、ご指導ご協力を賜り誠にありがとうございます。

当協会は北海道立林産試験場の研究内容や成果を広く知らせるべく、「ウッディ・エイジ」の刊行、「木と暮らしの情報館」での展示による木材・木製品のPR、7月恒例の林産試験場と共催の「木のグランドフェア」の開催、林産試験場と業界間の情報交換会など、当協会の主たる役目を果たして参りましたが、近年、私たちを取巻く林業・木材産業の環境が大きく変わりつつある様に思えます。

それは世界的な資源ナショナリズムの高まりであります。これは石油や、非鉄金属、鉄鋼などからはじまり、その後木材世界に波及し、地球温暖化対策としての環境保護と、違法伐採取締などから一挙に原木不足の状態になりました。それにより輸入原木、輸入合板、輸入木製品と全て価格高騰となりました。この背景には中国における木材産業の成長とバブル経済状態の原料の争奪戦があります。またロシア政府の資源の国家管理強化も大きな影響となっています。

上記の外材原木不足の下、日本では、天然林に対する環境保護訴訟が多々起こされ、人工林収穫の時期到来と重なり一挙に人工林による国産材時代に突入しつつあります。

北海道の人工林材の育成と利用拡大は 北海道水産林務部と北海道立林産試験場が行ってきた政策でありました。今長年の努力が報われつつあり喜ばしい事ではありますが、継続的林業政策と技術研究は益々重要であります。正に「国産材時代 人工林時代の到来」なのであります。

さてわが木材利用の結果としての住宅建築もその環境が大きく変わりつつあります。昨年の耐震偽装事件以後、集合住宅であるマンションの問題が明らかとなり、木造戸建て住宅が見直されました。また住宅に対する安全性と信用と保証が求められ、確認申請の厳格化や、構造計算義務化の方向もあります。これはノンホルマリン化などのシックハウス問題、健康住宅とあいまって住宅に対して厳しく求められる基準であります。これらの研究、検査、保証などは北海道立林産試験場と北海道林産技術産普及協会に期待される世界であり、今後の進む道であります。

北海道林産技術普及協会は 上記課題に林産試験場と共に社会貢献すべく活動して参りますので、本年も皆様方には引き続きのご支援ご指導の程、宜しくお願い致します。